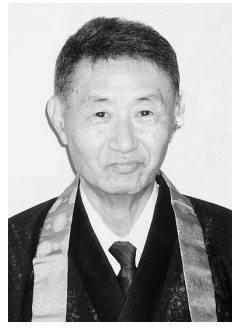


# やすらぎ



## 「歎異抄」(第二十二回)

樫 暁 講述

### 「歎異抄」 第十二章

一 經釈をよみ学せざるともがら、往生不定のよしのこと。この条、すこぶる不足言の義といつべし。他力真実のむねをあかせるもろもろの聖教は、本願を信じ、念仏をもうさば仏になる。そのほか、なにの学問かは往生の要なるべきや。

(真宗聖典六三二頁)

学問ができるかどうかというのは、その人の資質や縁というものがある。学問ができるからといっても、信心がはつきりしないということがある。

他力の信心とは、学問でたすかるのではない。他力の信心が決定することにおいて、学問があるう

が、なかるうが、我々の往生が定まり、成仏することができるのだと云おうとされている。

ところが、世の中は希少価値と云われるように、数少ないものに価値が評価される。ダイヤモンドも皆が持っていたら、価値はなくなる。学問もできる人、できない人を評価する。

そういうようなこととは違い、他力真実のむねをあかしてある『大経』をはじめとする、経・論・釈というものは、学問せよということではなく、「本願を信じ、念仏を申さば仏になる」ということを云われるのである。学問が欠けたら往生できないというのであれば、阿弥陀如来の本願は広く深い誓願とならない。

「本願を信じ、念仏を申さば仏になる」このことひとつをあきら

光照寺寺報

発行所  
宗教法人光照寺

〒331-0821  
さいたま市北区別所町102-2  
電話：048-651-2781(代)  
FAX：048-651-2753  
E-mail  
yasuragi@beige.ocn.ne.jp  
ホームページ  
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji

発行人  
池田孝郎

かにする、これが大事なのである。学問を振り回すことは大間違いで、「本願を信じ、念仏申す」ということがはつきりしないならば、いよいよ学問してそのことをはつきりしなさいと云っているのが第十二章である。

(当寺)ご法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照) 次回へ続く



修正会



2008.01.0



2008.0

◎ 目録り 旅行記

◎ 春季彼岸会法要

三月二十日(木)二時三十分 厳修

詳細は三頁

詳細は五頁



のであるうか。この度は「孤独」について考えてみたい。

最近の携帯電話、パソコンの普及の影に他者と繋がってみたいとする欲求が顕著に現れている。はたして本当に繋がりが得られるものであろうか。淋しさと孤独の不安を現代文明は電子機器というツールに解消を求めている。

コミュニケーションの一つの方法であることは確かであるが、あまりにも安易であり、かえって不安を増幅しているようにも思える。

過日、日光猿軍団の神の使いとする一匹の白い猿をみた。顔を手で覆い、日射しがまぶしいのか、眠っているのか、体を丸めてとても淋しい様子にみえる。他の猿達は芸を仕込まれ人間を笑わせている猿もいるのに。

視点をかえてみると、神の使いの白い一匹の猿をみている檻の外の人間も、人間を風刺した猿の劇を見ている人間も、又淋しい孤独な一人一人であることよ。

人間も進化論から考えてみれば、集団的猿の群れから社会的動物としての群れの動物へと進歩発展を遂げたものでしょう。集団の中においても孤独、一人いても孤独。どうやら弱い動物が集団的群れをつくっても、その根本のところは孤独であり、真に交わることが出

来ない本性を内包しているのでしょう。

ゲノムの解説によつて、八万年から十万年の大氷河期にアフリカの南の門（紅海の南の端）から海を渡った二千人強の集団がクロマニオン人で、今日のわれわれホモサピエンスの始祖であるとのこと。黒人も、白人も、黄色人種もこの一団のグループに由来することがわかつてきた。もつと驚くことは細胞核のミトコンドリアDNA イブはこの集団の女性の細胞核を母性の中に引き継ぎ、男女、民族、人種の全ての人々の細胞の核となつているということである。

細胞の核が同一のミトコンドリアイブであっても、個と個は同一になれない。しかし、親鸞聖人のいわれる「世々生々の父母兄弟」がゲノム解説で証明されたことは、浄土真宗の教えをいただく者にとつては有難いことです。

昔よりの人間の命題として、「自分はどこから来たものか。そして、どこに行こうとしている者か」の問いに、答えを身をもつて目覚められた方が釈尊であられた。「自らのいのちは尊い、そして、全てのいのちと共に尊い」として、「天上天下唯我独尊」として立たれた。孤独を超え真の独立者の姿がここにある。南無阿弥陀仏。

### 小さな窓から

福祉の老人ホームで一週間くらいのショートステイで毎月お世話になつてゐる。一寸高級な姥捨山である。私は友達がすぐ出来る気でいたがその様な人は大抵「時には家の者に楽をさせてあげよう」と思つて来るの」と間もなく帰つてしまふ。言葉も無く自分のことは何も出来ない動けない人達もいる。係りの人はこの人達に少しでも沢山食べさせてもらおうと気の毒なほど苦心する。動けないままバランスのいい栄養のおかげでみんな内臓は健康である。その人達は私に声無き声で「あなたもこの中の誰かにならないという約束は出来ませんよ」と言う。楽しい行事にも参加出来ない人達の為にも、この一週間をもつと重く受け止めていかないと申し訳ないと思う事であつた。

渋谷恵美子

### 音の鈴

人間は自分が自分になりきることができたなら、本当に助かったということになる

二階堂行邦（念仏に生きるとき）

昨年暮のNHK紅白歌合戦をみて思ったことは、若い歌手の人数が多く出演し、想いのほどを若きエネルギーをぶつけて歌っている歌詞の内容であつた。力強く情熱的に歌つてはいるが、淋しさと孤独の中に共感の大地を求めて訴えている叫びにも聞えてくる。

よくよく昔の歌を思い出しながら考えてみると、共通して昔の歌も今の歌も歌詞に流れる底流は淋しさと孤独に呻吟している人間の心象風景である。淋しさに泣き、孤独に呻き、そこから立ち上がるうとしてゐる姿である。

何故人間は淋しさと孤独に泣く

# 日帰り旅行記

## 秋の甲州路武田信玄を訪ねる旅

土田一富三

恒例の光照寺旅行が十月二十日（土）行われた。前夜の雨も上り快晴、総勢二十五名午前八時甲府へ向け出発。今回の旅行はNHKで放映されている山本勘助と武田信玄のゆかりの寺甲州五山を訪問する事が主であったが、現地観光協会の指導もあり五山から三山に変更となった。バス車中で皆さんに了解を得現地ガイド佐野氏によるガイドが武田神社から始まる



武田神社にて

た。佐野氏の熱心なガイドによりここで又訪問先が変更になり困った事になったと思っていたが、訪問しているうちに佐野ガイドさんの言う意味が判り不安を一掃してくれた。円光院での説明、善光寺では予定外の戒壇廻りや宝物館の見学等色々配慮していただいた。当初自分が計画した事が現地観



甲斐善光寺にて

光協会の方やガイドさんに次々と変更されてしまい参加の皆さんの期待に反する事となってしまったが、これも現場を知る専門家が私達観光客の年令等も加味して一番楽しく、又、楽に廻れる方法を選んでいただいた事も、やはり、光照寺の旅行である事が原因しているのではと思われる。

今回新しく旅行に参加していたいた方々にも積極的に協力していただき楽しい旅となり、全員無事に帰る事が出来た事が何よりの事でした。又旅行に色々とお手伝いいただいた方々に改めて厚くお礼申し上げます。



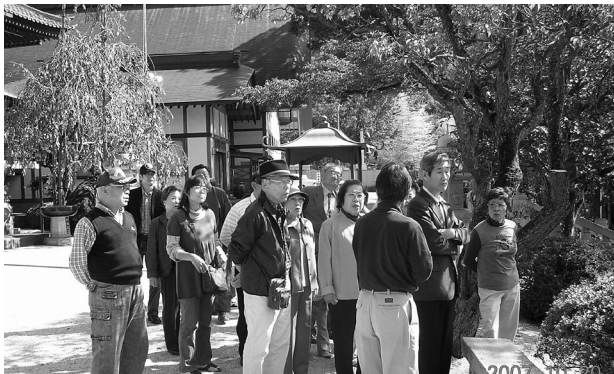
ガイドの佐野さん

平成十九年度

光照寺旅行に参加して

桶川市 北川美智雄

私は、初めて一昨年七月光照寺を訪ね、護持会員となった北川美智雄と申しますが、今回初めて、お寺の大事な行事の一つであります「日帰り旅行」へ参加しました。参加の動機は、会員だから…、旅行内容が良いから…等ではありません。「人生は旅」でもあるからです。生かされている自分に感謝し、与えられた事柄を受ける喜びを、悦びとしたい為でした。想った通り、正しい教えの真宗を学ぶ





ビンゴで大盛り上がり

同朋の人生経験豊富な人達と有意義な一日を過ごせた事は、生涯忘れない思い出の一つとなるはずで  
す。機会を与えて下さいました光  
照寺と限りない阿弥陀様の慈悲へ  
の報恩と感謝で一杯でした。今年  
度の旅行は、昨年と同様との事で、  
「貸切バスでの日帰り」行程で、  
十月二十日土曜日当日は、前日の  
小雨も揚り秋の好天に恵まれたす  
ばらしい日の朝八時定刻光照寺を  
出発、高速中央道で向かう先は、  
山梨県甲府市。武田信玄ゆかりの  
地「NHK大河ドラマで話題の「風  
林火山」において、「山本勘助」  
がクローズアップされ、タイム  
リーな旅行企画でした。「武田神  
社」「円光院」「甲斐善光寺」にお  
参り見学し、昼食は、百年の歴史



景色・天気良好

ある食事処の「江戸屋」で武田信  
玄公の「陳中食」といわれる、ほ  
うとうぐをいただき、甲府は、日  
本のワイン誕生の地で、土産物屋  
「マルスワイン工場直販店」へ立  
寄り、参加者二十五名(含、副住  
職の姉ご夫妻とお子様四名)は、  
全員無事に余裕と安心の境地で、  
午後七時予定通り光照寺へ到着、  
中味の濃い旅行を実現しました。  
また、バス道中では、退屈する  
事なく配慮された数々のイベント  
(ビンゴゲームやカラオケ/住職  
の十四歳上のお兄さんの話)や飲  
物等が用意され、幹事の土田さん  
の名司会と岡田ノリ子さんの気遣  
いとイベントの助手役のうまさ  
に感心と感謝の思いでした。役員  
の方の企画力の手土産が反映されて



いることを感じます。  
また、池田住職の独特の明るさ  
が滲み出て、人への思いやりの深  
さには、魅力さえ感じました。旅  
行も、パンフレットや費用の大小  
では何も解らないものです。実際  
に、自ら目に触れ、手で触って初  
めて、各自夫々別々に感動がある  
のが良いのです。是非皆さんも今  
後積極的にお寺の行事に参加され  
る事をお推しめし、実現出来る事  
を祈念します。  
最後になりましたが、山田護持  
会長さん、そして、バス会社瑞穂  
の運転手さんにお礼を申し上げます  
して初めて参加した北川のコトバ  
と致します。



合掌

# お彼岸

『正信偈』を同朋唱和した法事のあとに親族の方が次のようなことを云われた。「お経を読んでみると意味は分からないけど、何かあたたかさだけは感じました」と。私は「感性がいいですね」と応えた。お経の意味は分かりませんという言葉はこれまで幾度となく聞いたのですが、しかし、今回驚いたのは、「あたたかさだけは感じた」ということです。「あたた

かい」という言葉には色々なイメージがあると思いますが、仏言ぶつごんに包まれ、心が清浄になる感覚と表現していいものか、難しく表現すると闇に光が射すということなのではないかと思えます。

その親族の方は『正信偈』に触れたのは初めてかも知れませんが、しかし、「あたたかさだけ」を感じる宗教的感性があれば、この人はどんな困難なことがあっても生きていくことができるだろうなと感じたことです。

宮城先生は「(へいのち)を理知だけで生きるといえるのは、逆立ちして大地に頭で立っているようなもの」と仰っています。私達は理知を頼りとし、お経も解釈できな

ければ分からない、だから救済も分からないとなりがちですが、仏が何を願う、発信しているのかを感受していくところに大地を足で立ち、ようやく歩くことができるのではないかと思います。

副住職 (釈徹照)

## 春季彼岸会法要

- ・3月20日(木)春分の日
- ・午後1時30分～3時30分まで (1時受付)
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。  
預骨されている方は率先してお参り下さい。  
ご参詣をお待ちしております。

## 彼岸参り

・3月17日(月)～23日(日)の期間  
(但し20日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させていただきます。  
ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

## ひとくち 歎異抄

羅漢：喜びのないものは浄土へは行けないのか。

「他力の悲願は、かくのごときのわれらがためなりけり」。第九章



ほんのう しょうい  
煩惱ぼんのうの所為しょういによって迷える人々を救ひうと誓ちかわれるのが如来の悲願です。

川越喜多院の五百羅漢



報恩講 櫟先生法話



参詣の皆さん

# お知らせ

## ◆法要のご案内

### ●春季彼岸会法要

三月二十日(木)、午後一時三十分より厳修。

### ◆光照寺護持会

平成二十年度の護持会費の納入をお願い致します。

### ◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会  
毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樅峯先生。日程は当寺にお尋ね下さい。

### ●大経の会

二月三日(日)、三月三日(月)、四月十四日(月)、五月二十五日(日) 午前十時～午後三時まで。お弁当持参して下さい。

### ●我聞の会

二月十三日(水)、三月十三日(木)、四月二十二日(火)、五月八日(木) 午後二時～四時まで。講師は住職。

### ●埼玉組、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け大会

三月八日(土) 午後十二時五十分。会場は大宮ソニックシティ小ホール。講師、蓑輪秀邦氏、胡弓演奏、楊興新氏。参加ご希望の方はお寺にご連絡下さい。

### ●さいたま親鸞講座

二月二日(土)、四月五日(土)、六月十四日(土)、午後二時～四時まで。会場は大宮川鍋ビル。

### ●真宗のつどい

会場は埼玉県内の寺院。ご参加の際はお寺にご連絡下さい。

### ◆光照寺旅行

本年十一月一日～三日。本山上山と京都観光。帰敬式(生前法名授与)を受式したい方は早めにご連絡下さい。

## 俳句 短歌

吉澤 光照

香り立つ手入れ届きし冬薔薇  
メール打つ指憚りみてもどかしき

西木 順子

冬ぬくし小町の木像杖をつく  
返り花散りゆくものの音固し  
冬桜大道芸人紅潮す

布施 毅夫

臥す友の命かがやけ冬薔薇  
鐘の音や高く低くも去年今年  
除夜の鐘雪の降らざる街に住む  
除夜の鐘地震祓ふや番神堂

(柏崎市鯨波)

花岡 要

団欒やしやぶしやぶ囲む小正月  
娘より才暮の鮭の届きけり  
念仏は無碍の大道春うらら  
澄み空に映してみようわが心

山田 恒

温暖化地球の軋む声が入る  
残された余白へ春の風をすれ

釈 義深

世の中は変化の兆しどう動く  
変化こそ発展チャンス一向衆  
八百年「南無阿弥陀仏」変りなく

田中 徳子

漆黒の宇宙に浮ぶ美しき碧き地球  
をかぐやは映す

灰色の月のうしろに沈みゆく地球  
うるわし愛さの増す

赤秀 品枝

ひっそりと寂しく逝きぬ白寿の義  
母御恩知らずの我を恥ず  
寿ぎて迎える人のあることをあり  
がたきかな不思議なるかな

布施 毅夫

能登沖のあたりに夕日沈みゆく茜  
の空に復興のきざし  
手をかざし影を曳きつつ真向いて  
元朝のひかり胸におさめる

新春を寿ぎ「美しく青きドナウ」  
の清流が記憶のなかを滔滔とゆく  
ばら二本背負いし亡兄の遺影あり  
額縁の中にてかすかにはにかむ

篠原 潤子

謎めいたひと言ありて漸くここに  
癒しの旅立ちを知りぬ  
フェルメールの「真珠の耳飾りの  
少女」と向き合いて夕餉たのしむ

篠原 潤子

気が合わぬケンカばかりの母と共に  
東京の街人尋ねゆ  
初孫を別れた親にあわせんと八十  
の母居所たづねる

篠原 潤子

息切れす八十の母強雨なか孫のため  
にと人尋ねゆ  
郷土の資料館で捜しぬく二十年前  
古き住所

篠原 潤子

ついに逢う別れし母子感泣し二十  
二年の時を経て今

篠原 潤子

ありがたや郵便局のアルバイトヒ  
ザに湿布で楽しみもあり  
若人と年末年始郵便局ハガキ区分  
のアルバイトする

篠原 潤子

夕方の方の仕事に向かうわれ照らす阿  
弥陀如来のまばゆき光

## 梵鐘



花岡 要 画

歎異抄第十六章「日ごろの心にては往生かなうべからず」を教わった。日ごろの心とは日常私達が持っている常識の事であるが、この常識について今私達に反省が求められている。先日テレビでアフリカの子供達が飲み水を池迄一時間も歩いて汲みに行き、その水が泥水であった状態を目の当たりにした日本の若者が、きれいな水を子供達に飲ませたいと願い井戸掘りの光景が放映されていた。我々の現状はどうだろうか、水道からすぐきれいな水が出るのにミネラルウォーターを購入している。又、食べ物にしても大量にゴミとして廃棄するのは年間千トンとの事、一方、世界で餓死する人が千二百万人、これでいいのだろうか。仏法僧の三宝に遇うことなく一人だけの心地よさに埋もれて自己満足の世界に閉じ込められ、それに気付かない自分自身に反省し、自分に出遇う事が必要であると感ずる。(釈一乗)